SEIDANREN 生団連
国民生活産業・消費者団体連合会

生団連ニュースレター Vol.92

生団連ニュースレターでは、「国民の生活・生命を守る」という使命のもと、
様々な活動に取り組む生団連の最新情報を皆様にお伝えしています。

2023年5月号

第12回　消費者部会開催

3月16日(木) 第12回消費者部会を開催いたしました。

阿南部会長による議事進行のもと、各課題の活動状況および今後の方向性について参加者による活発な議論や意見交換が行われ、全議題が承認決議されました。今後も生団連では各消費者団体と連携し、より良い活動へ繋げてまいります。

【出席者のご意見】 ※一部抜粋

【最重要・重点課題　2023年度　活動計画報告】

・国民が税金の使い方に興味を持ち、国を動かす大きなうねりを生み出すことが大切。財政を理解するきっかけになるよう、シンポジウムに期待。
・外国人の就労に関するサポートはもちろん、国への支援も考える必要がある。

【組織強化に向けた課題　2023年度　活動計画報告】

・埼玉生団連は「労働力としての外国人の確保」「食料安全保障」が課題。
・北海道生団連は「食料安全保障」を重点取組みテーマとする。

【国家財政の見える化委員会による国家予算の報告】

出生率の低下は晩婚化・女性の社会進出が前提ではない。子ども家庭庁の予算の方向は注視する必要がある。国会議員は身を切る予算を立てるべき。

2023年度第1回　常務理事会・理事会合同会議　開催

4月6日(木)2023年度第1回常務理事会・理事会後同会議を帝国ホテル「孔雀の間(東)」にて開催しました。

リモート参加も含め総勢60名にご出席いただき、2022年度の各委員会活動を報告後、2023年度活動計画について活発な意見交換が行われました。全議案が承認可決され、各課題について積極的な活動を継続していくことが決議されました。

【主な２023年度活動方針】

■有事における国民的危機への対応

司令塔機能の強化に関し、大規模災害や安全保障上の有事も調査対象を拡大する。リスクコミュニケーションに対する教育システムの調査を進める。

■「国家財政の見える化」の実現に向けて

「３カ年複数年度予算制度導入」「独立財政機関設置」を目指して夏～秋を目途に提言を実施する。国家財政の自分事化を目指し、大規模シンポジウムを行う。

■「生活者としての外国人」の受入れ体制の構築に向けて

技能実習制度の見直しを行っている政府に対し、就労に関する提言を提出する。

■「エネルギー・原発問題」の国民的議論に向けて

中立的立場での情報収集・発信に引き続き取り組む。2024年に予定される第7次エネルギー基本計画に向けて、意見表明・提言の準備を行う。

■災害支援スキームの構築

サプライチェーン全体での支援体制の構築を目的とした、各業種からメンバーを集めた分科会を発足し、議論を重ねることを目指す。

■ジェンダー主流化

実践的な内容の分科会を年間通して開催し、さらに研究を進める。重点課題化され１年が経つので、座長を決める。

わらび市民活動ネットワークフォーラム２０２２　出展

2023年3月19日（日）蕨市にて市民活動ネットワークフォーラム2022が開催され、
生団連も出展いたしました。

新型コロナウイルスの影響で約４年ぶりの開催となりました。元気に市民活動「ゲンカツ」をテーマに、市民活動団体の皆さんによる団体発表や体験コーナー、それぞれの団体が交流する井戸端会議、模擬店など、様々な催しものが行われ、大盛況の会となりました。

生団連は、「外国人の受入れ」「食品ロス」を中心としたブースを設け、市民の皆様にはアンケートへご協力いただきました。

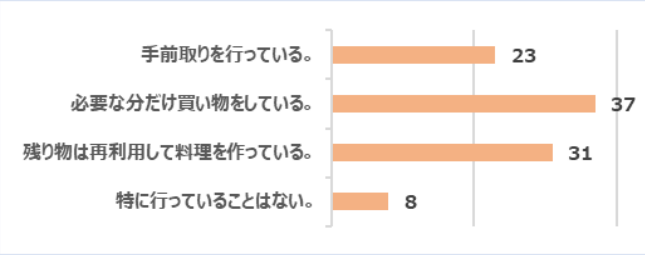
▲市民の皆様の生の声を聞くことができました

▲老若男女問わず、様々な方にお越し頂けました

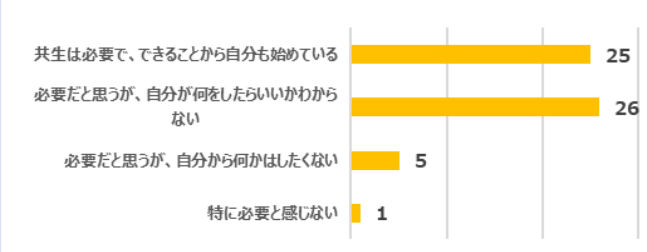
▲「外国人の受入れに関する委員会」共同座長の植田様から埼玉県議会議員の方へ取り組みをご説明いただきました

アンケート結果(一部抜粋)

■普段食品ロス削減に向けて、行っていることはありますか。（複数回答可）n=60



■日本人と外国人との共生について、どう思いますか。(複数回答可)n=57



食品ロスに関しては、取り組めることから始めている傾向がありました。一方で、外国人との共生に関しては、何をしたらいいのかわからない方が多いということが分かりました。生活者が日々の生活の中で、取り組める事柄を広めていくために、生活者自身が取り組みやすい活動の発信にもより一層力を入れてまいります。

気候変動　第1回勉強会　開催

2023年3月28日（火）
立命館大学　古気候学研究センター長　中川　毅　氏を講師として招き、
「暴れる気候と暴れない気候　ー人類は「想定外」の世界をどのように生き延びたかー　」
というテーマで、研究課題・気候変動に関する第1回勉強会を開催しました。

※41名（36社・団体）が参加

▲立命館大学　古気候学研究センター長
中川　毅　氏

世界が直面している気候変動について、地球史的観点から、過去の変動と現在の実態、そして今後の備えについて、ご講演頂いた後、参加者と質疑応答を行いました。

【プログラム】
1. 予測できる変化と予測できない変化について
2. 農耕社会を成り立たせる脆弱な基盤について
3. 「想定と対策」という考え方の本質的な限界について

【事務局より】

今回、「気候変動」について考え議論をしていく上でのファクトの整理を狙いとした勉強会を開催し、多くの会員様よりご出席・ご好評をいただきました。第2回は「海」をテーマに準備中ですので、会員の皆様は次回も奮ってご参加下さい。

なお、第1回勉強会の様子は、生団連HPの会員専用ページより視聴可能です。こちらも是非、ご覧ください。

SEIDANREN 生団連
ニュースレター
【お問合せ先】
国民生活産業・消費者団体連合会(生団連)　出水　石井　☎：03-6833-0493　✉：jimu@seidanren.jp
〒108-0075 東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル8階　URL：https://www.seidanren.jp/